

まちづくり交付金 事後評価シート
大野町条里地区

平成26年2月

岐阜県大野町

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

本様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階について、記入欄を色分けで区分しています。それぞれの結果を該当欄に記入してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	緑点線
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	水色
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	ピンク

2. 記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。
3. 記入欄が不足する場合には、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入して下さい。
4. 国への提出後、必要に応じて再提出等のために修正を行う場合は、従前の記載内容は削除せず、消し線を用いて下さい

例1)数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2)文章の修正

【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	大野町		地区名	大野町条里地区			面積	670ha		
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	752	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	【道路】黒野麻生1号線 【公園】根尾川リバーサイドパーク、条里公園、揖斐二度ザクラ公園、旧黒野駅ふれあい広場 【地域生活基盤施設(情報版)】大野バスセンター・麻生・黒野 【高質空間形成施設(照明施設等)】黒野麻生1号線 【既存建築物活用事業(観光交流センター)】旧名鉄揖斐線黒野駅									
	当初計画から削除した事業		提案事業										
			【地域創造支援事業】大野町運動公園整備、散策ツアー等の開催、ガイドマップの作成 【事業活用調査】事業効果分析調査事業										
	新たに追加した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	【公園】野古墳群(ふれあい広場整備)			国の史跡に指定されており、工事を行うに当たり国との協議が必要であるが、そのための調査及び協議に時間を要しており、計画期間中に事業実施が困難となったため			なし			
交付期間の変更		当初		平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし					
		変更		平成20年度～平成25年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	条里制についての認知度	%	14	平成19年度	20	平成25年度	-	23	○	あり なし	条里公園、黒野駅レールパークの整備と合わせ、条里解説版の設置や散策ツアー等の開催のソフト事業により、相乗的な効果がみられ、目標以上の成果を挙げることができた	無し
	指標2	観光拠点施設の利用者数	人/年	430,000	平成19年度	460,000	平成25年度	376,992	-	△	あり なし	根尾川リバーサイドパーク、条里公園、揖斐二度ザクラ公園、黒野駅レールパークの整備により、観光拠点施設のPRができた。ただし、平成22年度以降は各種イベント等の自費等があり、利用者数全体としては減少した結果となったが、近年は増加傾向となっている。	平成26年6月
	指標3	大野町運動公園レインボースタジアムの年間利用者数	人/年	14,000	平成19年度	15,000	平成25年度	17,902	-	○	あり なし	大野町運動公園整備により、電光パネル、ベンチを整備したことにより、利便性が向上し、目標値を大きく上回る結果となった。平成25年度においても、10月末時点の結果から、目標値を上回る結果となった。	平成26年6月4日
	指標4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	指標5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4)定性的な効果発現状況	地域文化をPRする施設等の普及により、地域住民の歴史的遺産や伝統に関する知識・関心が向上し、来訪者に対する大野町のPRについて、住民の参画が期待できる。また、揖斐二度ザクラ公園等、広場や観光施設の整備により、公共施設の充実が図られ大野町に定住する人口が増加することが見込まれる。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況						今後の対応方針等			
	モニタリング	無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	無し		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築		・大野町シルバー人材派遣センターについて ・公園及び植栽管理について	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						○	・公園や植樹帯の管理内容と実態をヒアングで確認する。 ・地元ボランティア団体等と協力した管理体制を構築する。		

様式2-2 地区の概要

大野町条里地区(岐阜県大野町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
【大野町ならではの地域文化を活かしたまちづくり】 目標1 地域間交流の場やスポーツ振興の場を整備し、あらゆる生活の場で自然とのふれあいや、人、文化、情報が交流しあうゆとりあるまちづくり 目標2 歴史的遺産や伝統を継承し、来訪者などの町内外に文化を伝えていくまちづくり 目標3 観光資源となる魅力の活用や関連道路や歩道などを整備し、人が訪れやすくなる快適な環境づくり	条里制についての認知度	単位: %	14 H19	20 H25	23 H25.11.9
	観光拠点施設の利用者数	単位: 人/年	430,000 H19	460,000 H25	376,992 H25
	大野町運動公園レインボースタジアムの年間利用者数	単位: 人/年	14,000 H19	15,000 H25	17,902 H24.10



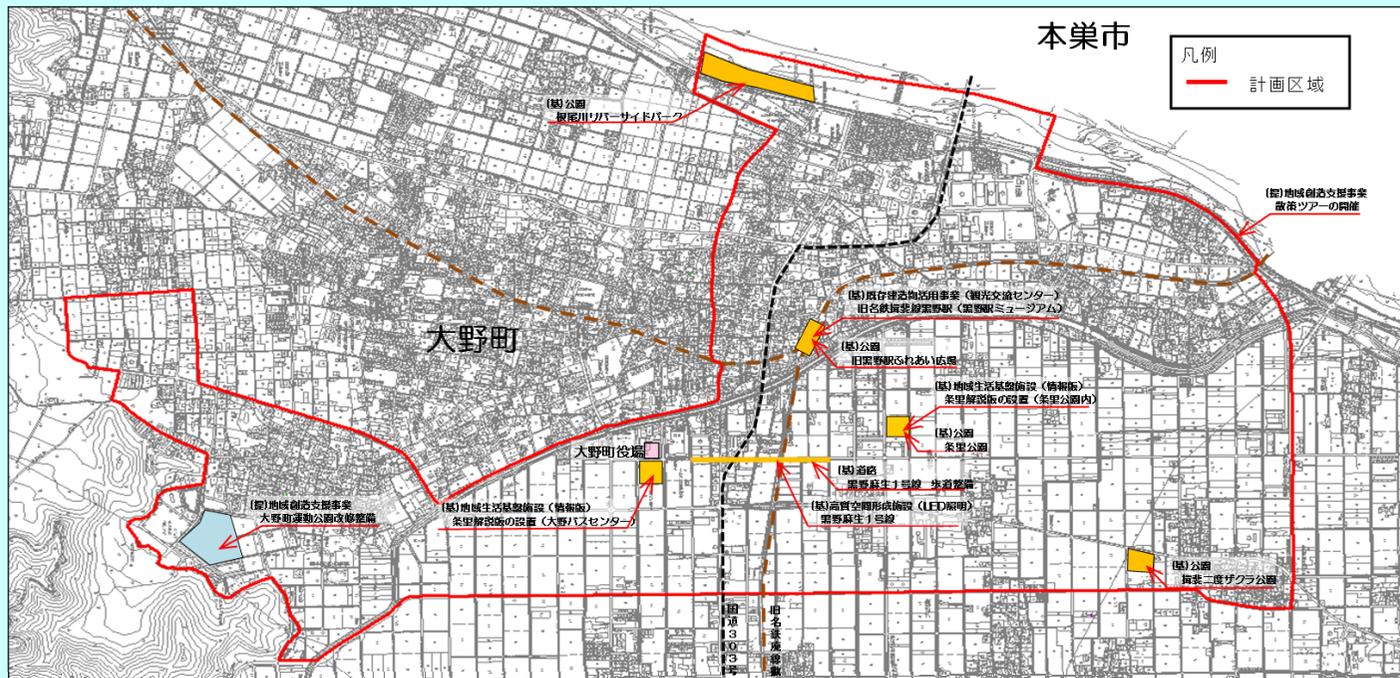
条里解説版(大野バスセンター)



旧黒野駅ふれあい広場



条里公園



電光掲示板(レインボースタジアム)



散策ツアーの開催



揖斐二度ザクラ公園

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 条里公園、黒野駅レールパークの整備と合わせ、条里解説版の設置や照明灯に条里地点表示板を掲げた。また散策ツアーの開催のソフト事業により、認知度が向上した。 条里公園の整備、大野バスセンターへ条里に関する情報版を設置したことにより、条里制を視覚的に伝える仕掛けができた。 条里公園の整備、大野バスセンターへの条里に関する情報版を設置したことにより、条里を軸とした歴史の伝承に繋がった。 黒野麻生1号線の歩道整備により、条里公園までのアクセス道路の整備率が向上した。また大野バスセンターに条里解説版を設置し、条里公園をPRした。 大野町運動公園レインボースタジアムの改修整備により、整備水準が向上した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 大野町らしい豊かな自然や田園風景を活かす取り組みが必要。 条里を中心とした周辺史跡とのネットワークのハード整備が必要。

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	黒野麻生1号線	115	L=350m (H21~H24)	34	L=350m (H21~H23)		影響なし	●	
公園	根尾川リバーサイドパーク	68	A=8,000㎡ (H21~H23)	50	A=8,000㎡ (H21~H22)		影響なし	●	
公園	条里公園	155	A=5,000㎡ (H21~H23)	77	A=3,250㎡ (H22~H24)		影響なし	●	
公園	揖斐二度ザクラ公園	125	A=5,000㎡ (H21~H22)	114	A=5,000㎡ (H21~H22)		影響なし	●	
公園	野古墳群ふれあい広場	20	A=2,000㎡ (H22)	-	-	国の史跡に指定されており、工事を行うに当たり国との協議が必要であるが、そのための調査及び協議に時間を要しており、計画期間中に事業実施が困難となったため	影響なし	-	-
公園	旧黒野駅ふれあい広場	-	-	220	A=7,700㎡ (H22~H24)	既存建築物活用事業として予定している旧名鉄揖斐線黒野駅の建物改修に伴い、周辺の名鉄敷地の跡地を有効利用し、建築物と公園を一体として整備する方針とするため	影響なし	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建築物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし		
指標1	条里制についての認知度	%	-	-	14	19	20	25	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	23	事後評価	○	
指標2	観光拠点施設の利用者数	人/年	-	-	430,000	19	460,000	25	モニタリング		モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ●	376,992	事後評価	△	
指標3	大野町運動公園レインボースタジアムの年間利用者数	人/年	-	-	14,000	19	15,000	25	モニタリング		モニタリング		●	
									事後評価	確定見込み ●	17,902	事後評価	○	
指標4									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	条里公園、黒野駅レールパークの整備と合わせ、条里解説板の設置や散策ツアー等の開催のソフト事業により、相乗的な効果が見られ、目標以上の成果を挙げる事ができた。	
指標2	根尾川リバーサイドパーク、条里公園、揖斐二度ザクラ公園、黒野駅レールパークの整備により、観光拠点施設のPRができた。ただし、平成22年度以降は各種イベント等の自粛等があり、利用者数全体としては減少した結果となったが、近年は増加傾向となっている。	東日本大震災の影響により、イベント自粛等があったため、数値が伸び悩んでいるが、近年増加傾向にある。
指標3	大野町運動公園整備により、電光パネル、ベンチを整備したことにより、利便性が向上し、目標値を大きく上回る結果となった。平成25年度においても、10月末時点の結果から、目標値を上回る結果となった。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度		モニタリング	事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

地域文化をPRする施設等の普及により、地域住民の歴史的遺産や伝統に関する知識・関心が向上し、来訪者に対する大野町のPRについて、住民の参画が期待できる。また、揖斐二度ザクラ公園等、広場や観光施設の整備により、公共施設の充実が図られ大野町に定住する人口が増加することが見込まれる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
・大野町シルバー人材派遣センターについて ・公園及び植栽管理について	予定どおり実施した	● 公園及び植栽管理について、管理契約を結ぶ	大野町シルバー人材派遣センター: 公園及び植栽管理を実施	・公園や植樹帯の管理内容と実態をヒアングで確認する。 ・地元ボランティア団体等と協力した管理体制を構築する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(まちづくり交付金事後評価検討チーム)	【産業建設部】 部長: 児島秀次 【産業建設部建設課】 課長: 今西和之 【産業建設部建設課】 課長補佐: 後藤崇 【産業建設部建設課】 主任: 神谷涼介	平成25年11月1日	産業建設部建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標(その他)	
指標名		条里制についての認知度		観光拠点施設の利用者数		大野町運動公園レインボースタジアムの年間利用者数		なし	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】黒野麻生1号線	—	条里公園、黒野駅レールパークの整備と合わせ、条里解説板の設置や散策ツアー等の開催のソフト事業により、相乗的な効果がみられ、目標以上の成果を挙げることができた。	○	根尾川リバーサイドパーク、条里公園、揖斐二度ザクラ公園、黒野駅レールパークの整備により、観光拠点施設のPRができた。ただし、平成22年度以降は各種イベント等の自粛等があり、利用者数全体としては減少した結果となったが、近年は増加傾向となっている。	—	大野町運動公園整備により、電光パネル、ベンチを整備したことにより、利便性が向上し、目標値を大きく上回る結果となった。平成25年度においても、10月末時点の結果から、目標値を上回る結果となった。	—	なし
	【公園】根尾川リバーサイドパーク	○							
	【公園】条里公園	◎							
	【公園】揖斐二度ザクラ公園	○							
	【公園】旧黒野駅ふれあい広場	○							
	【地域基盤生活施設】大野バスセンター・条里公園	◎							
【高質空間形成施設】黒野麻生1号線	◎								
提案事業	【地域創造支援事業】大野町運動公園整備	—		○		◎			
	【地域創造支援事業】散策ツアー等の開催	◎		○		—			
関連事業	なし								

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	引き続き散策ツアー等を開催し、町民にとどまらず、来訪者に対しても条里制の認知度を高められるようにする。	ハード事業で整備した施設を最大限に活用できるよう、普及啓発に努め、今後も継続的に利用者を維持・増加させる。	引き続き利用者数の経過観測を行ない、利用者のニーズに合わせた整備を実施することで、今後の利用者数の底上げを図る。	なし
-------	---	---	--	----

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(まちづくり交付金事後評価検討チーム)	【産業建設部】 部長: 児島秀次 【産業建設部建設課】 課長: 今西和之 【産業建設部建設課】 課長補佐: 後藤崇 【産業建設部建設課】 主任: 神谷涼介	平成25年11月1日	産業建設部建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
条里制に対する認知度が低く、条里を身近に感じることが少ないため、条里跡について住民をはじめ、多くの人に知ってもらおう。	条里公園、黒野駅レールパークの整備と合わせ、条里解説板の設置や照明灯に条里地点表示板を掲げた。また散策ツアーの開催のソフト事業により、認知度が向上した。		なし
条里が視覚的に伝えられないため、日ごろの生活において条里を確認できる仕掛けを作る。	条里公園の整備、大野バスセンターへ条里に関する情報版を設置、照明灯に条里地点表示版を設置したことにより、条里制を視覚的に伝える仕掛けができた。		
条里を軸とした大野町の魅力の創出や町内における歴史の伝承のために、大野町らしい豊かな自然や田園風景を活かす。	条里公園の整備、大野バスセンターへの条里に関する情報版を設置したことにより、条里を軸とした歴史の伝承に繋がった。	大野町らしい豊かな自然や田園風景を活かす取組みが必要。	
条里と史跡との連携が必要であり、大野町の歴史・文化を伝えるため、条里を中心とした周辺史跡とのネットワークを図る。	黒野麻生1号線の歩道整備により、条里公園までのアクセス道路の整備率が向上した。また大野バスセンターに条里解説板を設置し、条里公園をPRした。	条里を中心とした周辺史跡とのネットワークのハード整備が必要。	
大野町運動公園レインボースタジアムは収容能力や整備水準が低いため、岐阜清流団体の運営に影響を及ぼすことが懸念される。	大野町運動公園レインボースタジアムの改修整備により、整備水準が向上した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	条里制をPRする発信源の拡張	条里制について、地域住民及び来訪者に継続的に普及啓発を行う	情報版の設置 散策ツアー等の継続
	公園及び植栽の管理	・大野町シルバー人材派遣センターを通じて公園及び植栽の維持管理を行う ・地元ボランティア団体等と協力した維持管理体制の構築	管理契約の締結

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	大野町らしい豊かな自然や田園風景を活かす取り組みが必要。	豊かな自然や田園風景を活かすため、既存公園などの自然の保全、創造及びふれあい体験等を実施し、大野町らしい自然をPRする。	町の環境施策をまとめた「(仮称)エコタウンおおの基本計画」を策定する。
	条里を中心とした周辺史跡とのネットワークのハード整備が必要。	条里制を活用した歩行者ネットワークを構築し、観光、安全に配慮した道路網を整備する。	条里制に合わせて歩行者の導線を確保するため、継続的に「歩道の整備」を実施する。

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・施設の名称は住民に親しみを持ってもらえるように、統一または分かりやすく表現すること。
- ・揖斐二度ザクラ公園にアクセス道路(歩行者)とトイレを増設することで、観光客が来た時の混雑が解消される。
- ・旧黒野駅ふれあい広場(黒野駅レールパーク)について、トイレの増設、屋根付きのベンチ、旧まちなみ案内版の設置、花壇の設置、運営用の事務所等、必要に応じて設置することで、さらに利便性が高まる。
- ・今後も継続的に各種団体と連携してフォローアップ(経過観測)が実施できると良い。
- ・整備した観光施設をフェイスブック等を用いて世界に発信できる仕組みができると良い。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	課題及び目標に即した数値指標を設定し、着実に事業実現が図られたことにより、目標値を達成できた。	地区の課題及び目標に即した事業を採用するとともに、必要な時点で容易にデータ計測が可能な指標を設定することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	大目標(地域文化を活かしたまちづくり)、中目標(人・文化・情報の交流、歴史的遺産や伝統の保全、快適な環境づくり)、に対応した事業の関係を明確に構築したことで、数値目標によって効果を計測することができた。	目標とそれを実現するための事業との関係が明確であるとともに、事業効果を的確に示すことができる数値指標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	地域住民との散策ツアー等の開催等により、住民と協働してまちづくりを考えるきっかけとなった。	住民等の参画、協働のまちづくりを推進することが、効果的な事業成果に有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	計画期間終了後においても、適宜モニタリングを実施する予定であり、今後の事業実施可能性を見極めながら、随時必要な計画変更を行い、柔軟に事業を推進する方針である。	計画立案段階や事業推進段階において、住民や関係機関の参画を図ることで、事業への理解と協力が得やすくなり有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

大野町南部地区(平成25年度～平成28年度実施予定)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	大野町ホームページに掲載	平成26年3月1日～ 平成26年3月10日	平成26年3月1日～	担当課への電話、 FAX、電子メール	産業建設部 建設課
広報掲載・回覧・個別配布	大野町ホームページに公表する旨を広報に掲載	3月号に掲載予定	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	<p>・事後評価シートを1年間公表し、その間、意見を受け付け、住民の意向を取り入れたまちづくりを推進する。</p>				
-------	---	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科 講師 坂本 淳	・平成25年12月13日	産業建設部建設課	大野町まちづくり交付金 評価委員会設置要綱	大野町役場
その他の委員	黒野南区 広報委員 松浦 正幸 南方区 広報委員 河村 慶郎 (元)大野町条里史跡委員 杉原 正 大野町教育委員会 生涯学習課(学芸員) 竹谷 勝也				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特に意見なし
	成果の評価	・レインボースタジアムは利用者も増加し、各種イベント会場としての需要も高まっており、利用者の評判が良いとの報告をいただいた。
	実施過程の評価	特に意見なし
	効果発現要因の整理	特に意見なし
	事後評価原案の公表の妥当性	特に意見なし
	その他	・施設の名称は住民に親しみを持ってもらえるように、統一または分かりやすく表現すること。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続き及び内容は妥当であり、本事業を実施して良かったと意見をいただいた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特に意見なし
	フォローアップ	・今後も継続的に各種団体と連携してフォローアップ(経過観測)が実施できると良い。
	その他	・整備した観光施設をフェイスブック等を用いて世界に発信できる仕組みができると良い。 ・条里が確認できる仕掛けについて、「照明灯に条里地点表示板」を掲げたことは、全国初の試みであり、非常に評価できる。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくりの方策及びその内容は妥当であると意見をいただいた。
その他	・揖斐二度ザクラ公園にアクセス道路(歩行者)とトイレを増設することで、観光客が来た時の混雑が解消される。 ・旧黒野駅ふれあい広場(黒野駅レールパーク)について、トイレの増設、屋根付きのベンチ、旧まちなみ案内版の設置、花壇の設置、運営用の事務所等、必要に応じて設置することで、さらに利便性が高まる。	